

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1991年度



1992年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

1. 本書は、平成3年に小杉町教育委員会が実施した、埋蔵文化財発掘調査及び、分布調査の概要をまとめたものである。
2. 本書に収録の発掘・分布調査は、平成3年1月から平成4年1月末までとした。
3. 太閤山カントリークラブ建設に伴う発掘調査は、小杉町教育委員会が調査主体となり、山武考古学研究所（所長 平岡和夫）調査員の協力を得て実施した。

調査の担当は、小杉町教育委員会が上野 章が行い、山武考古学研究所が武部喜充・桐谷 優・肥田順一・折原洋一・福山俊彰・小村正之・荒井英樹・大越直樹・丸山雅美が行なった。また、針原東遺跡は小杉町教育委員会が調査主体となり、調査の担当を原田義範が行い、山武考古学研究所の桐谷優・伊藤廉倫・荒井英樹・大越直樹・長井正欣の協力を得え、小杉流通業務団地No.1遺跡は、荒井英樹の、白石遺跡は、桐谷 優の調査協力をそれぞれいただいた。

4. これらの埋蔵文化財調査に係る事務局は、小杉町教育委員会におき、主任金山秀彰が担当し、社会教育課課長荒川秀次が総括した。また、7月からは、生涯学習課課長盛田寿子が総括した。
5. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、次の諸機関からも協力をいただいた。記して謝意を表したい。

荒山建設株式会社・呉羽射水山ろく用水土地改良区・開成測量株式会社・太閤山観光株式会社・富山市教育委員会・伸光株式会社・有限会社河上金物・北川産業株式会社

6. 小杉町教育委員会が調査担当した遺跡の出土遺物は、太閤山株式会社の調査事務所及び小杉町立太閤山小学校の教室を借用し整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。山武考古学研究所の調査協力に係る3箇所の調査遺跡分は、報告書の作成終了時まで山武考古学研究所が仮保管している。
7. 本書の編集・執筆は、上野・原田が行なった。

目　　次

1. 平成3年度の概要	1	表野遺跡 (No.11)	10
2. 分布調査	2	伊勢領遺跡 (No.14)	10
3. 試掘調査	3	針原東遺跡 (No.12)	11
戸破若宮遺跡 (No.1)	4	二の井遺跡 (No.13)	11
黒河竹山遺跡 (No.2・3)	4	4. 本調査	12
黒河西山遺跡 (No.6)	5	針原東遺跡 (No.7)	12
青井谷丸山II遺跡 (No.4)	6	5. ゴルフ場関係の調査	14
黒河尺目西遺跡 (No.5)	6	6. 普及・活用	17
天池C遺跡他2遺跡 (No.7～9)	7	(No.は、一覧表の番号を示す)	
東山II遺跡 (No.10)	10		

表紙写真は針原東遺跡の調査状況（南東から）

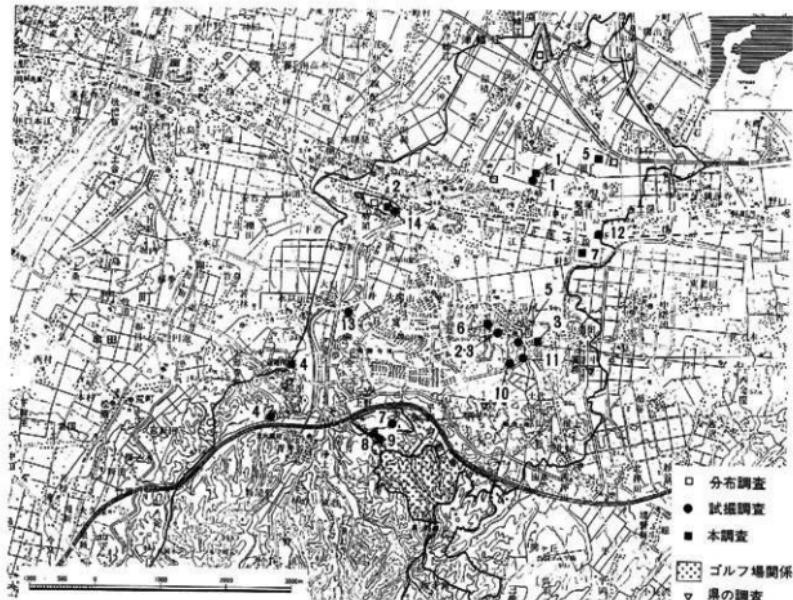
1. 平成3年度の概要

平成3年度小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・確認調査数十件、試掘調査13件、本調査22件であった。この内、射水丘陵では昨年から継続中の太閤山カントリークラブのゴルフ場建設に伴う調査が本調査のおおよそ半分を占めた。また、町主体の工事に伴う試掘や本調査も前年に比べ大きな割合となっている。

調査体制は、町の調査員2名のほか、ゴルフ場関係の調査やその他の本調査の一部を、千葉県に事務所をもつ山武考古学研究所から調査員1~5名の協力を得て実施した。

この他町内では、平成4年に県民公園太閤山ランドで予定されている第1回ジャパンエキスポ博覧会の開催に先立って予定地及び取り付け道路に係る2遺跡の発掘調査と、小杉流通団地の造成に伴う2遺跡の本調査が県教育委員会により行なわれている。

平成4・5年度は、今年度に試掘を実施した小杉インターパークで大規模な本調査がある。山林で未確認の遺跡の存在が多く想定される生産遺跡の集中地域のため、造成に先立つ充分な遺跡の保護措置や調査体制の充実が必要となってくる。



第1図 調査位置図（数字は調査一覧表の番号を示す）

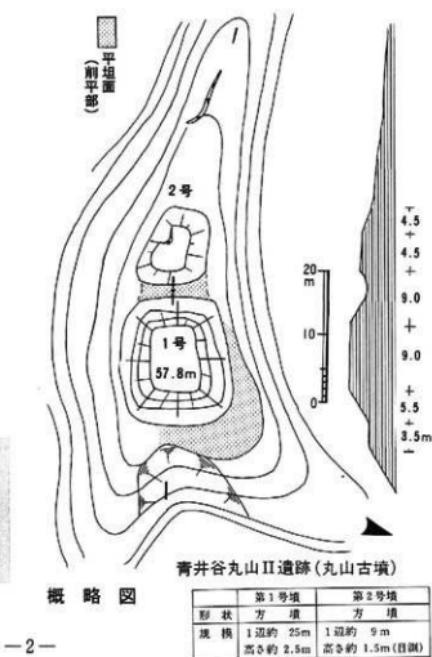
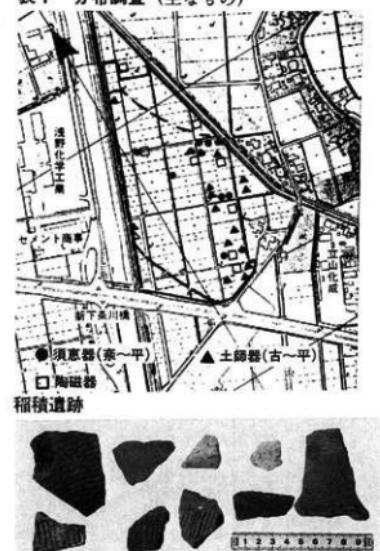
2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包含地内や付近で行なわれる公共関連事業や民間の各種開発に先立ち、事業者と協議して事前に現地確認をして遺跡の分布状況を把握したり、或いは、遺跡の所在が予想される地域での大規模な開発に対し、遺跡の分布調査を実施している。

調査件数は1ヶ月に数件程度である。周知の埋蔵文化財包含地は、地図に記入され町教育委員会の窓口に備え付けており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し周知の遺跡として、その後取り扱われることになる。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	種別	遺物・遺構	備考
1	稻 積	稲積 1・52外	工場団地 造成	H3.3.19～8.20 (延べ 2日間)	約80,000m ²	散布地	須恵器(秦～平)・土師器(古～中世)・瓦片(中世)・陶器(近世)	町調査
2	青井谷丸山II (丸山古墳)	青井谷 1,090外	土砂採掘	H3.6.17～9.10 (延べ 2日間)	約 9,000m ²	古 墳	方墳2・礎を集積 した遺構	"
3	伊勢領	三ヶ 2,237外	分譲住宅	H3.10.17～10.25 (延べ 2日間)	約11,700m ²	散布地	弔生土器・土師器(古～平)・ 須恵器(秦～平)・瓦片(中世) ・陶器(近世)	"
4	法楽寺跡	五官野 地内	町史編纂 現地調査	H3.12.21 (延べ 1日間)		塚	一辺 5 m程の方形 の塚3(中世)	編纂委員 会調査

表1 分布調査(主なもの)



3. 試掘調査

平成3年度、町教育委員会が実施した試掘調査は、太閤山カントリーゴルフ場関係を除くと、体育センター新設・小杉インターパークの公共関連事業2件を含めて12遺跡11件であった。試掘の結果、本調査が必要となったものは約7割に達した。

本調査は、昨年試掘を行った5件と今年度試掘の2件を実施し、残りの4件を次年度にもちこすこととなった。この中には小杉インターパークの計画地に含まれる天池C遺跡ほか2遺跡があり、飛鳥時代や奈良時代の須恵器窯跡や奈良～平安時代にかけて製鉄関連の生産遺跡群が調査対象地内に含まれている。工事の進捗により新たな遺跡の発見も予想される地域である。

No	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1 戸 破 若 宮	戸破字若宮 4,840外	町総合体育 センター建設	H3.3.19 (延べ1日間)	約12,000m ²	約 710m ²	穴・溝多数	弥生土器・須恵器(奈~平) 鐵鏡・骨器・土師質土器(中 世)・陶磁器(近世)		本調査実施
2 黒 河 竹 山	黒河 3,290外	駐車場造成	H3.6.3 (延べ1日間)	約 2,158m ²	約 278m ²	穴・溝	須恵器・土師器・鐵鏡(奈~ 平)・陶磁器(近世)		
3 "	黒河 3,154外	"	H3.10.12 (延べ1日間)	約 1,377m ²	約 158m ²		須恵器(奈~平)・珠撰(中 世)・陶器(近世)		
4 青 井 谷 丸 山 II	青井谷 1,090外	土砂探掘	H3.7.6 (延べ1日間)	約 380m ²	約 24m ²	集石環状遺構 (約2×約3m)			本調査必要
5 黒 河 尺 目 西	黒河 3,069外	駐車場造成	H3.8.29 (延べ1日間)	約 300m ²	約 12m ²		須恵器・土師器(奈~平)		
6 黒 河 西 山	黒河 807外	個人宅地造成	H3.8.29 (延べ1日間)	約 404m ²	約 63m ²	穴	石斧(鐵文)・須恵器・土師器・ 鏡(奈~平)・珠撰(中世)・ 陶磁器(近世)		本調査実施
7 天 池 C	入会地天池 73~1外	小杉イン ターパー ク建設 (会社用 敷地造成)	H3.6.18~7.31 (延べ28日間)	約40,000m ²	約 1,620m ²	炭焼窯29・製鉄炉 13・須恵器2・ その他19	石斧(鐵文)・須恵器(飛鳥・奈 良)・土師器・鐵鏡(奈~ 平)・土師器(奈~平)		本調査必要
8 水 蔵 場 G	入会地水蔵 場 144~1外	H3.8.7~8.9 (延べ3日間)	約 1,600m ²	約 240m ²	その他 4	須恵器(奈~平)		本調査必要	
9 水 蔵 場 H	入会地水蔵 場 144~1外	H3.8.10~8.29 (延べ 7日間)	約 5,600m ²	約 470m ²	炭焼窯11・製 鉄炉5・その他10	鐵津(奈~平)		本調査必要	
10 東 山 II	黒河字企賀 4,933外	店舗建設	H3.9.21 (延べ1日間)	約 1,532m ²	約 101m ²	炭焼窯4・ 焼盤穴・鐵 滓散布地	須恵器・鐵津(奈~平)		本調査必要
11 表 野	黒河字表 野 123~1外	個人宅地造成	H3.10.19 (延べ1日間)	約 407m ²	約 60m ²	穴(鐵文)	鐵文土器(中期)・須恵器(奈 良)・陶磁器(近世)	支撑なし	
12 針 原 東	手崎字針原 329外	工場配送 センター 建設	H3.10.19 (延べ1日間)	約 7,616m ²	約 860m ²	穴・溝	鐵文土器(後期)・飛鳥土器・土師器・ 須恵器(奈~平)・骨器・青磁・土器 (中期)・陶磁器(近世)		本調査必要
13 二 の 井	下条 618外	資材置場・ 駐車場造成	H3.12.4 (延べ1日間)	約 3,075m ²	約 860m ²	穴・溝	土師器(奈~平)・珠撰(中世) ・陶磁器(近世)	支撑なし	
14 伊 勢 嶺	三ヶ 2,249~2外	事務所建設	H4.1.13 (延べ1日間)	約 93m ²	約 15m ²			支撑なし	
計	13 遺跡	延べ 48日間	対象面積	約 76,542m ²	発掘面積	約 4,751m ²			

表2 試掘調査実績一覧 (ゴルフ場関係を除く)

戸破若宮遺跡（No.1）

遺跡は、標高約1.5mの平野部にあって、下条川左岸の微高地上に立地している。

この遺跡は、平成3年春に発見され、工事の緊急性から引き続き本調査を実施した。

試掘では弥生時代の溝や中世の溝・穴などが表土層の下近くから検出された。



位置図

黒河竹山遺跡（No.2・3）

遺跡は、平野部に接した標高約15m程の緩やかな勾配をもった丘陵上に立地する。

今回の調査地は、丘陵平坦面にあたり、約80m隔てて東西の2箇所で試掘を行なった。西



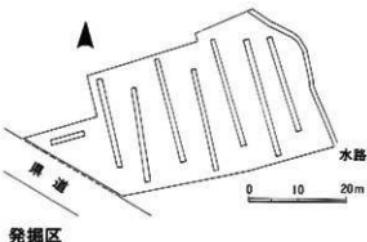
発掘区

側では、溝や穴などの遺構が対象地のほぼ全体からみつかったが、南側により多く遺構がある。遺物の年代は、主に奈良時代に属し、土器と共に多くの鉄斧が出土した。

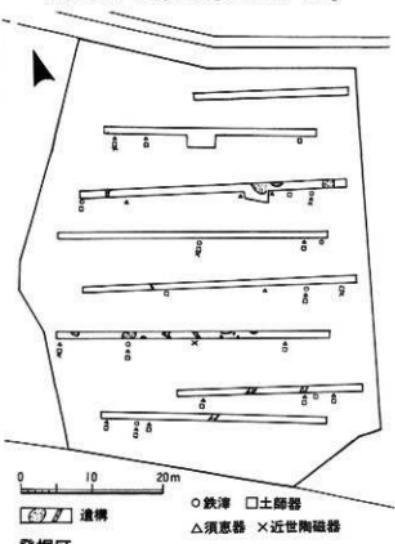
東側では、遺構が確認されなかった。



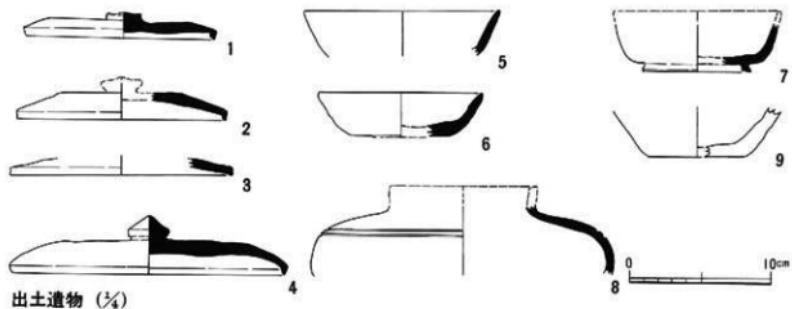
位置図



発掘区



発掘区



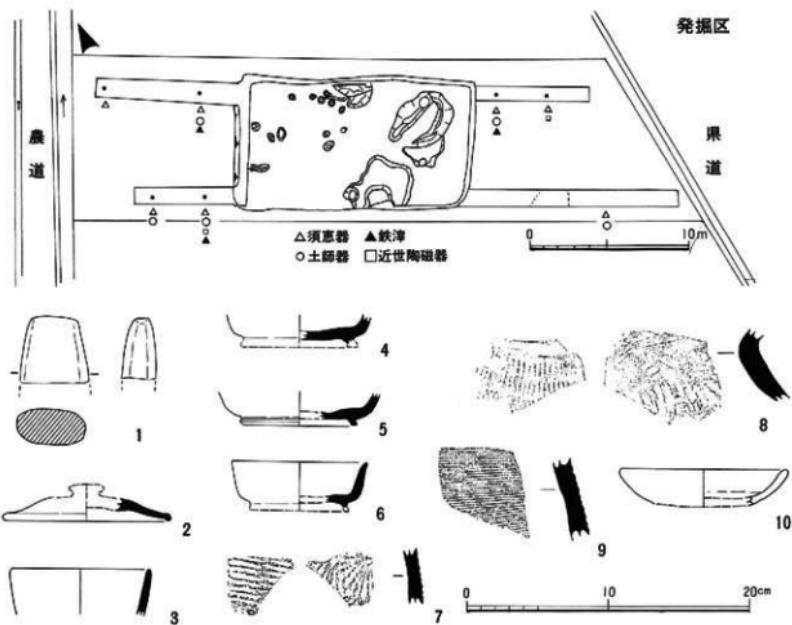
出土遺物 (14)

黒河西山遺跡 (No. 6)

遺跡は、平野部と接する標高約28mの緩やかな丘陵斜面に立地し、整地により水田となってい。今回の調査対象地では、耕作土の下層に整地時の盛土層がみられ、なかに平安時代の須恵器（2～8）・土師器・鉄滓などが比較的多

く含まれていた。

面的に広げた部分からは、柱穴状のピットを少し検出した。遺物では、このほかに、鎌倉時代のタール状の油脂のついた土師質小皿（10）や中世の珠洲が出土している。



出土遺物 (14)

青井谷丸山II遺跡（No.4）

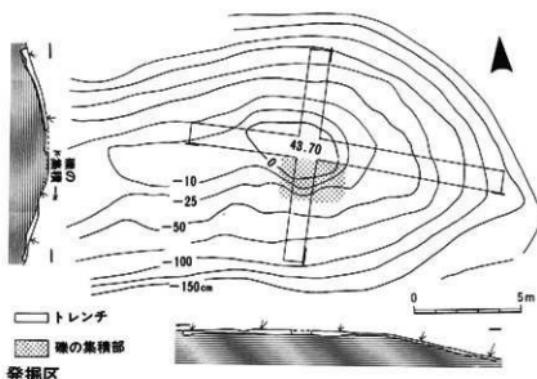
遺跡は、展望のきく丘陵の尾根先端に位置し、標高約43mを測る。

遺構は、 2×3 m程の広さに拳大の大きさの礫を集積したものを1箇所確認した。

遺構の性格は不明であるが、中近世の塚の一種であろうか。更に西側約20mの尾根上にも同様の礫を集積した箇所が存在する。



位置図



調査前の状況

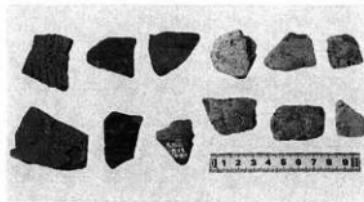
黒河尺目西遺跡（No.5）

遺跡は、丘陵部に接した標高約15m程の水田に立地する。

今回の調査地の西側にかけて浅い谷部がみられ多くの須恵器・土師器が散布している。調査では、須恵器・土師器が数点出土した。



位置図



採集遺物

天池C遺跡外(No.7~9)

遺跡は、小杉インターチェンジの南側に位置する標高20~60mの丘陵部に立地する。

調査は、富山テクノポリス計画の一環に小杉インターパークが組み込まれ、工場進出の誘致を図るために事前整備の一つとして試掘が開始されることになった。

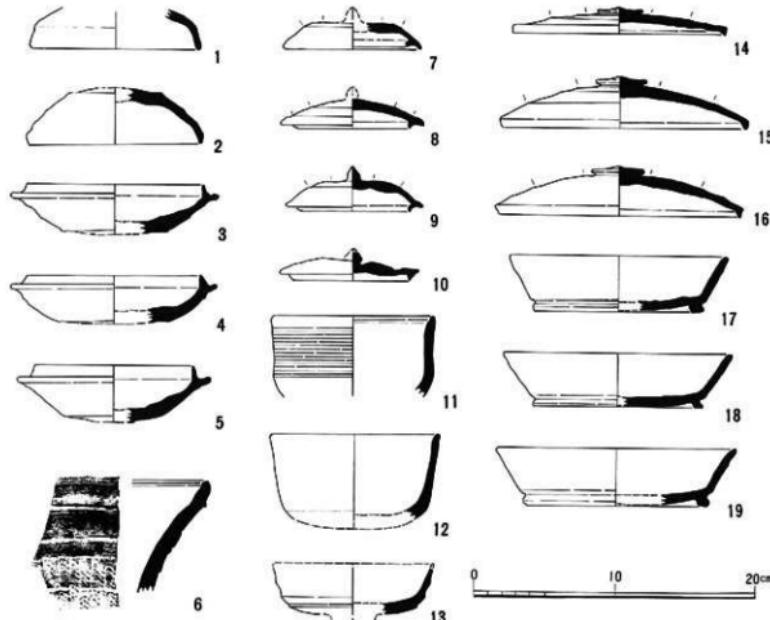
今回の調査は周知の3遺跡を対象としたものであり、試掘の結果表3に示す内容の遺跡を確認した。遺跡の性格は、射水丘陵に多く存在する須恵器・製鉄関連の古代生産遺跡であった。開発の計画面積は、前年の約19km²が試掘時に約34km²と拡大していた。調査地の現状は山林であるが、周辺の遺跡分布状況から今後更に別の遺跡の発見もありうる。

天池C遺跡I地区の出土須恵器は、7世紀第2四半期(飛鳥第二段階・図1~13)と8世紀初め頃(平城宮第1期・図14~19)に属するもので、いずれの時期も県内では、初見の窯跡であり、北陸でも発見例が少ない。

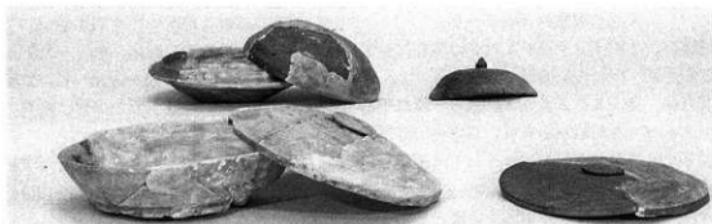
調査は灰層の一部を試掘しただけであるが1~5の杯と蓋・身が逆転した7~12の杯が同時に検出された。



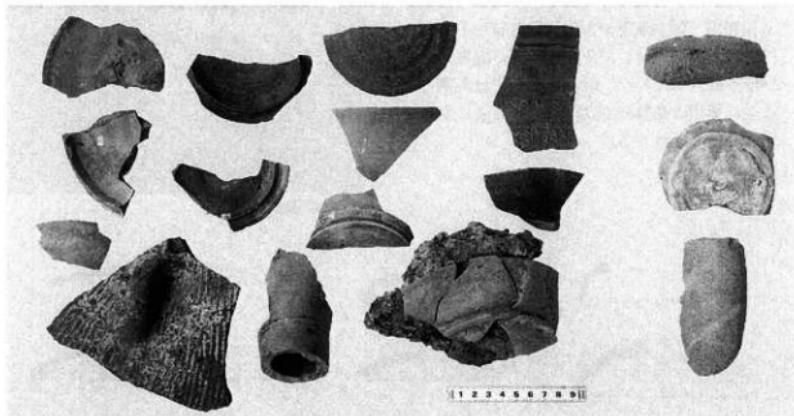
天池C遺跡I地区



天池C遺跡I地区出土品(1/4)



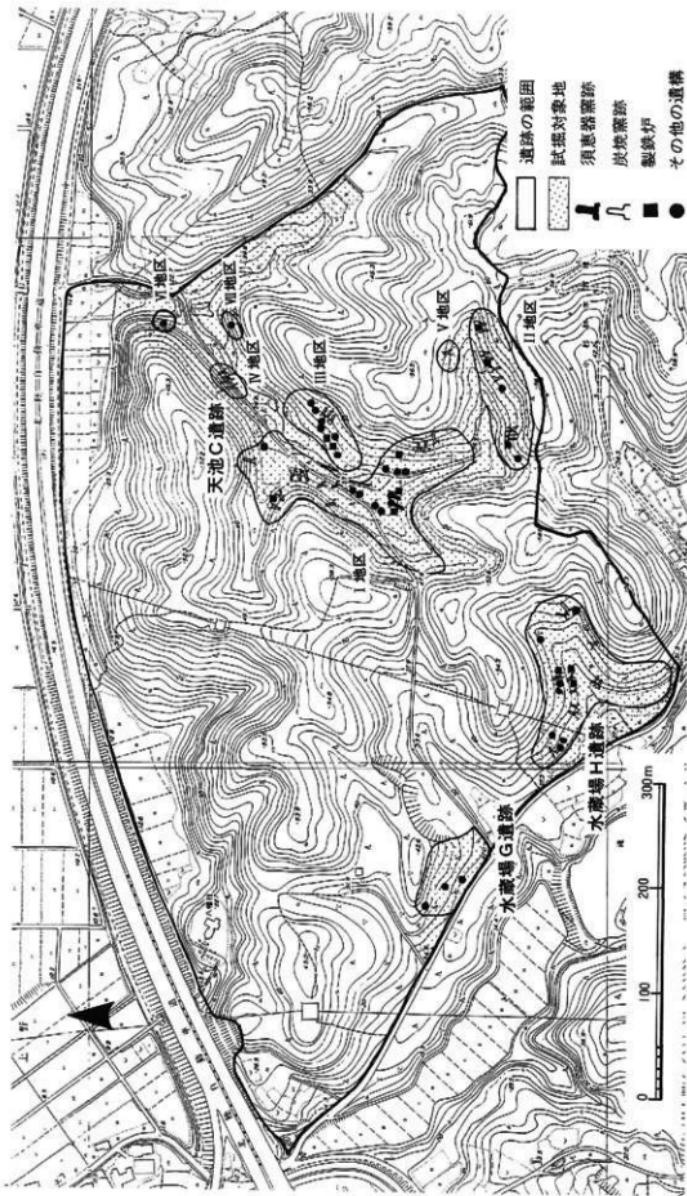
天池C遺跡I地区（上：7世紀第2四半紀、下：8世紀初め）



天池C遺跡I地区出土品

遺跡名	試掘面積	遺跡面積	検出遺構				出土遺物
			炭焼窯	製鉄炉	須恵器窯	その他の遺構	
天池C遺跡	1,620m ²	12,000m ²	12基	7基	2基	9箇所	石斧・土師器 須恵器・鐵滓
		6,000m ²	9基	3基		3箇所	土師器・鐵滓
		2,500m ²	3基	3基		5箇所	須恵器・鐵滓
		1,000m ²	4基				
		500m ²	1基				
		300m ²				1箇所	
		300m ²				1箇所	
(小計)	1,620m ²	22,600m ²	29基	13基	2基	19箇所	
水藏場G	240m ²	3,700m ²				4箇所	須恵器
水藏場H	470m ²	9,200m ²	11基	5基		10箇所	鐵滓
計	2,330m ²	35,500m ²	40基	18基	2基	33箇所	

表3 インターバーク試掘一覧



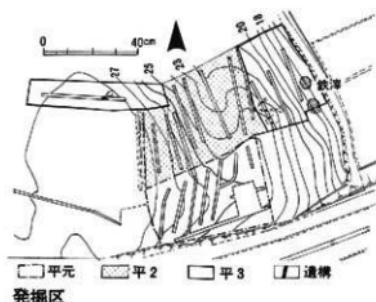
小杉インターバークの範囲と試掘遺跡

東山Ⅱ遺跡（No.10）

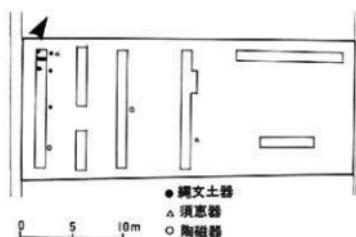
遺跡は、平野部と接する標高約16~28mの丘陵斜面に立地する。

これまでの県道敷きや隣接地の調査によって炭焼窯跡2基や焼壁穴が数個が発掘されている。

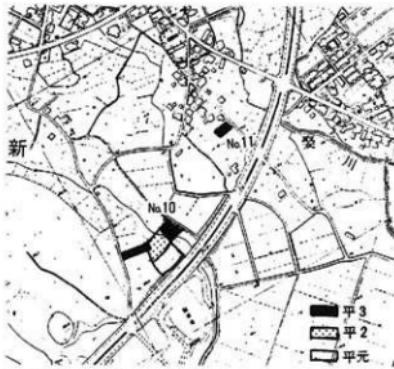
また平成3年の調査では炭焼窯跡や焼壁穴などの遺構や鉄滓の散布がみられた。付近に製鉄炉が存在しているとおもわれる。



発掘区



発掘区



位置図

表野遺跡（No.11）

遺跡は、丘陵部と平野部の接する所にあって標高約15mの微高地上に立地する。

この遺跡は、昭和51年に発見され、昭和56年に対象地東側で県道敷きの発掘調査が行なわれ、奈良時代の炭焼窯跡等が出ている。

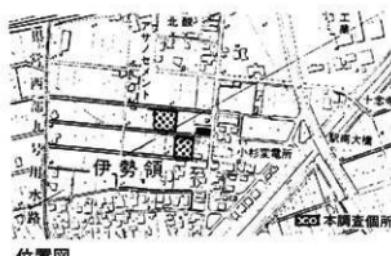
今回の調査対象地の西側から縄文時代中期の穴や土器が確認された。

伊勢領遺跡（No.14）

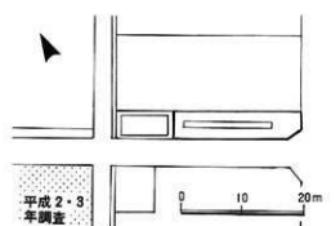
遺跡は、標高約5mの平野部にあって、下条川左岸の微高地上に立地している。

平成3年春に隣接地で本調査を実施し、弥生時代の大溝や奈良時代の溝を検出した。

今回の調査地は、表土直下に遺構面が存在しており、遺構・遺物は確認されなかった。



位置図



発掘区

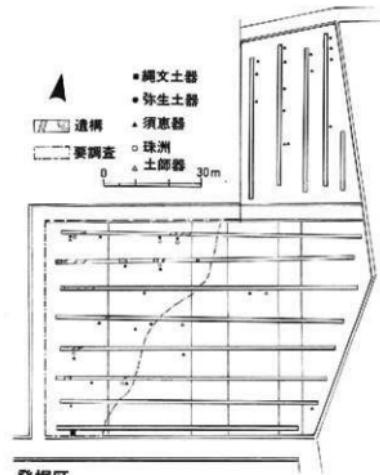
針原東遺跡 (No.12)

遺跡は、標高約3mの平野部に立地する。調査対象地南側では、平成元・2年の試掘によって弥生時代後期・中世の遺構が確認され、今年本調査を実施している。

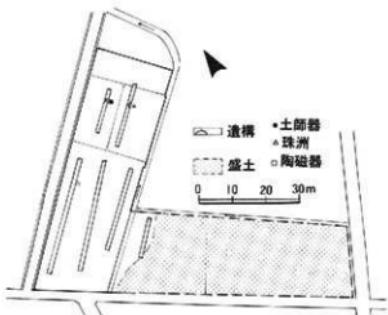
今回の調査地の西側にかけて溝や穴（中世か？）と縄文時代晚期や弥生・奈良～平安・中世の遺物が出土した。遺跡の広がりはJR北陸線の北側にまで及んでいる。



位置図



発掘区



発掘区



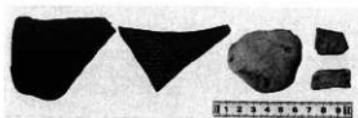
出土品

二の井遺跡 (No.13)

遺跡は、丘陵部に接する大きな谷部の入口にあたる標高が約16mの水田に立地する。

これまで周辺から弥生時代後期や奈良～平安時代・中世の土器が出土している。

今回の調査地では、若干の遺構が存在した。



位置図と出土品

4. 本 調 査

平成3年小杉町教育委員会で実施した本調査は、太閤山カントリークラブのゴルフ場関係を除くと、町総合体育センター・企業団地の公共関連事業2件と民間会社や個人によるもの5件であった。

No.	遺跡名 所 在 地	原 因	調査期 間	発掘面積	検出 遺構	出 土 遺 物
1 戸破若宮 戸破字若宮480番	町総合体育センター建設	H3.3.19～6.5 (延べ 68日間)	約4,000m ²	長さ70cmの溝・井戸穴など(奈良)、瓦と陶器の芋状窓・穴・井戸など(中世)	弥生土器・柱玉・須恵器(発生)・須恵器(奈良)、瓦と陶器の芋状窓(中世)、陶器(近世)	
2 伊勢原(北地区) 三ヶ2,252	分譲住宅建設	H3.3.21～5.1 (延べ 28日間)	約 400m ²	交差する深さ1m程の溝5、穴3(奈良)	弥生後期の土器(主体)・須恵器・珠洲	
3 伊勢原(南地区) 三ヶ2,278	アパート建設	H3.4.23～6.1 (延べ 28日間)	約 400m ²	輪郭窓・深さ2.5mの大溝(奈良) 墓1m程の溝(奈良)	弥生後期の土器・須恵器・土師器・鐵斧(奈良～平)・珠洲	
4 黒河尺目	ガソリンスタンド建設	H3.6.12～8.12 (延べ 41日間)	約1,000m ²	溝1・穴3(奈良)、掘立柱建物6、井戸	須恵器・土師器(奈良～平)、須恵器・土師器・蓄水槽(中世)、陶器(近世)	
5 小杉流通業務用地内(1 下条615番外)	会社工場増設	H3.6.10～6.24 (延べ 8日間)※	約 900m ²	溝1・墓坑1(古墳)、穴1(時期不明)	土師器(壺1個体分)・土師器杯(平)	
6 白石 鷲塚763	会社工場新設	H3.7.19～8.31 (延べ 24日間)※	約 236m ²	西地区:溝1(古墳)、東地区:溝1	縄文土器(後期)・土師器(古墳前期)	
		H3.9.2～11.30 (延べ 56日間)	約1,850m ²	東地区:方形容にめぐる溝、U字状に盛った溝・柱穴・井戸(主に中世)	弥生土器(弥生後期)・須恵器・青磁・土師器・壺・蓄水槽(中世)・陶器(近世)	
7 針原東 戸破字針原56 外	企業団地造成	H3.9.2～12.26 (延べ 96日間)※	約9,300m ²	穴・溝・井戸(弥生後期)、コの字形容にめぐる2重の溝(最大・延約80m)、掘立柱建物5以上、井戸5(中世)	縄文土器(後期)・弥生土器・石斧(弥生後期)・須恵器・土師器(奈良～平)・珠洲・青磁・土師器・壺・蓄水槽(中世)・陶器(近世)・井戸(弥生)・井戸(中世)・土器・壺・蓄水槽(中世)	
計	6遺跡	延べ 349日間	発掘面積 約18,086m ²	調査期間の帯印は山武考古学研究所の調査協力を得たもの		

表4 本調査(ゴルフ場関係を除く)

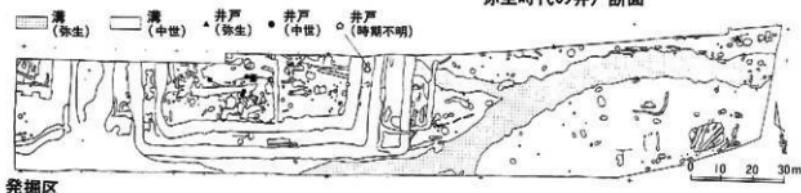
針原東遺跡

縄文時代の遺物は、東端20m程の範囲から遺構面の下層10~20cm黒褐色粘土から晩期末の土器30点が出土した。また、弥生時代の遺構は東西方向に流れる幅数mの溝や、その周辺から1m弱の大きさの穴30程と井戸2(左の写真)があった。

中世の遺構は、幅4m程、一辺80m程の溝とその内側に一辺65m程の溝が二重にめぐる館跡状をしたもの(表紙写真)を発掘した。溝で囲まれた部分からは掘立柱建物11・井戸5などが存在した。



弥生時代の井戸断面





戸破若宮遺跡（弥生時代の溝）



戸破若宮遺跡（弥生時代の井戸）



伊勢領遺跡（南地区・弥生時代の溝）



伊勢領遺跡（北地区・奈良時代の溝）



同上 溝の弥生土器出土状態



黒河尺目遺跡（奈良・中世の穴・建物）



小杉流通業務団地内No.1遺跡



白石遺跡（方形にめぐる溝など）

5. ゴルフ場関係の調査

太閤山カントリークラブは、27ホール設計のゴルフ場で当初平成4年秋に18ホールをオープンし、平成5年春に27ホールオープンをめざし、平成2年4月の開発許可以降に本格的な造成工事が開始された。

このゴルフ場建設に係る埋蔵文化財の調査は、昭和62・63年に計画地の富山市・小杉町で分布調査が実施されたことに始まる。平成元年6～7月に分布調査で明らかとなった遺跡を対象とし、試掘調査を市・町教育委員会が行い、引き続き7～11月に遺跡の存在が推定される地域を対象に試掘を継続し、19遺跡の所在が確認された。これらの遺跡の性格は、射水丘陵に多く分布している奈良時代から平安時代にかけての須恵器窯跡や製鉄炉・炭焼窯跡を中心とした製鉄関連の生産遺跡群であり、古代の手工業生産遺跡群の一角に当ることから多くの遺跡が造成にかかっていた。

そこで、関係者による協議が重ねられ設計変更等により、遺跡を未造成の法面に含める方法や周辺の緑地帯に含めることなどにより遺跡の保存措置がとられ、工事期間との調整が図られた。しかし、なお調査期間を短縮するため、民間の考古学研究所の協力を得て本調査を実施することとなった。

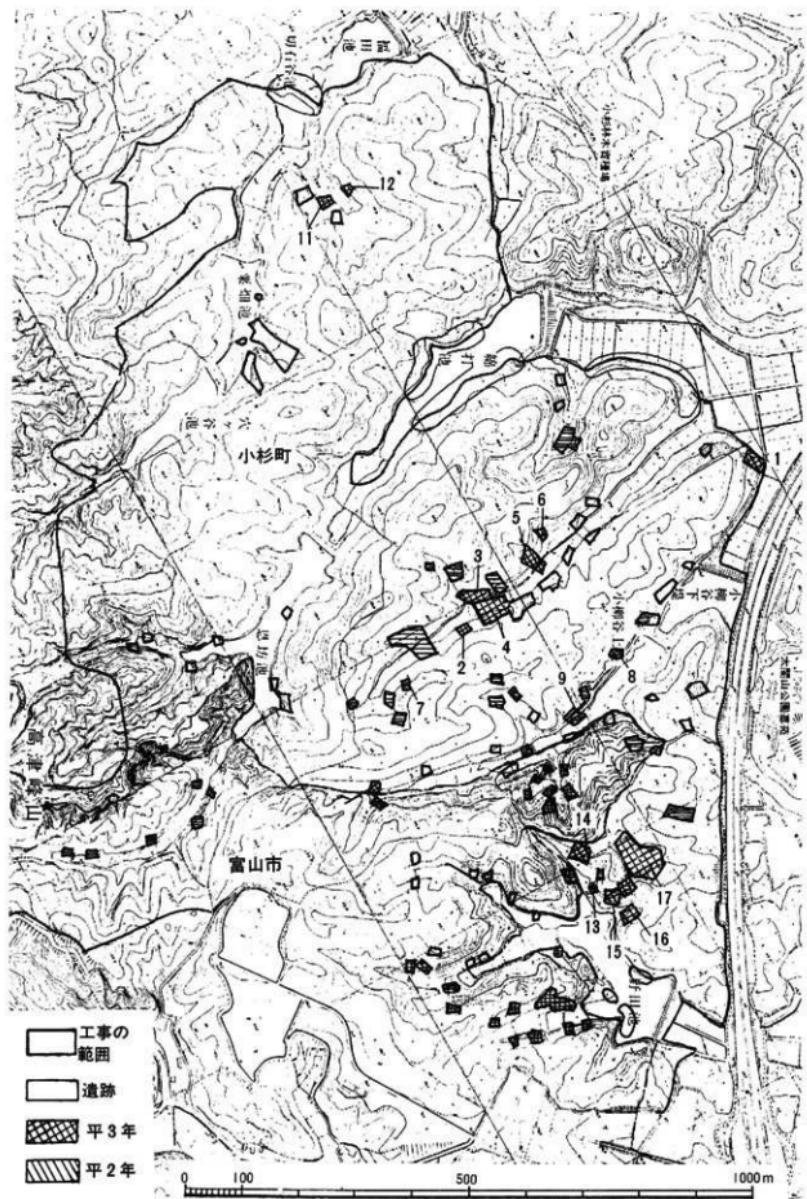
本調査は平成元年に1遺跡の発掘を行い、平成2年は5月から山武考古学研究所調査員の協力のもとに小杉町及び富山市教育委員会が調査主体となって発掘が進められた。工事の進捗に伴い丘陵掘削面において新たに多くの遺跡の所在が分布調査により明らかとなった。そのため小杉町では4遺跡16地区の本調査と新たに見つかった4遺跡17地区の試掘調査を行なった。平成3年度は、試掘結果にもとづいて野田池A遺跡を中心に8月まで発掘調査を実施した。



上：赤坂B遺跡II地区第1号須恵器窯跡
下：野田池A遺跡IV地区



上：野田池A遺跡V地区 豊穴住居跡
下：野田池A遺跡V地区 掘立柱建物



太閤山カントリークラブ建設地内の遺跡

(小杉町関係・平成3年2月1日～8月10日までの期間)

No.	遺跡・地区	発掘面積	調査方法	調査期間	担当者	主な遺構	主な出土遺物	備考
1	赤坂B-II	約 380m ²	本 調 査	2.1～2.16 (延べ 5日)	桐谷	須恵器窯跡 2、穴 4、溝状構築 1	須恵器 鉄滓	H2.11.13～調査終結
2	赤坂C-II	約 470m ²	本 調 査	3.4～3.13 (延べ 5日)	肥田・大越	穴 1	土師器・須恵器・鉄滓	H2. 5.22～調査終結
	赤坂C-V	約 610m ²	本 調 査	4.9 (延べ 1日)	肥田	炭焼窯跡 6、(横口式 1)、地下式 2) 瓢形製 鉄炉 1、穴 4	土師器・須恵器・鉄滓	H2. 7.10～調査終結
4	赤坂C-VI	約 1,198m ²	本 調 査	3.10～4.16 (延べ28日)	肥田・小村	炭焼窯跡 4、箱形製鉄炉 2、穴 5	土師器・須恵器・鉄滓	H2. 8.20～調査終結 主に道路敷き
5	赤坂C-VII	約 626m ²	本 調 査	2.4～3.13 (延べ 7日)	肥田・小村	炭焼窯跡 3 (地下式 1)、箱形製鉄炉 1、穴 3	土師器・須恵器・鉄滓	H2. 8.20～調査終結 道路敷き
6	赤坂C-XI	約 230m ²	本 調 査	3.1～3.11 (延べ 5日)	肥田・大越	穴 1	土師器・須恵器・鉄滓	H2.11. 9～調査終結
7	赤坂C-XXIX	約 190m ²	本 調 査	3.7～3.8 (延べ 2日)	肥田	炭焼窯跡 1	土師器・須恵器・鉄滓	H2.11. 6～調査終結
8	赤坂D-IV	約 400m ²	本 調 査	2.6～3.6 (延べ 6日)	肥田	炭焼窯跡 1、焼壁穴 1、その他穴 5	土師器・須恵器・鉄滓	H2. 7. 2～調査終結の一 部・道路敷き
9	赤坂E-II	約 60m ²	本 調 査	2.1～2.6 (延べ 5日)	肥田	炭焼窯跡 1	土師器・須恵器・鉄滓	
10	赤坂E-XII	約 220m ²	本 調 査	5.29～6.24 (延べ17日)	小村	炭焼窯跡 1	土師器・須恵器・鉄滓	
11	切石谷C-II	約 280m ²	試掘調査	4.22～4.29 (延べ 6日)	荒井	炭焼窯跡 2 (横口式)	土師器	
12	切石谷C-IV	約 280m ²	試掘調査	4.25～4.29 (延べ 5日)	荒井	炭焼窯跡 5	土師器	
13	野田地A-III	約 225m ²	本 調 査	5.21～5.28 (延べ 5日)	折原・福山	焼壁穴 2	土師器皿・須恵器・鉄滓	
14	野田地A-IV	約 513m ²	本 調 査	5.13～6.21 (延べ16日)	武部・丸山	炭焼窯跡 5 (地下式 2)、堅形製鉄炉 3、穴 2	土師器皿・須恵器・鉄滓	
15	野田地A-V	約 519m ²	本 調 査	5.13～6.9 (延べ39日)	折原・福山	炭焼窯跡 1 (地下式)、堅形製鉄炉 1、焼壁穴 1、點穴 住居跡 2 (平安)、獨立住居跡 1 (平安)	須恵器・鉄滓	
16	野田地A-VI	約 980m ²	本 調 査	5.8～6.21 (延べ20日)	解谷	炭焼窯跡 1 (地下式)、堅形製鉄炉 1、焼壁穴 2、點穴 住居跡 1 (奈良)	須恵器皿・蓋、土器・鉄製品	
17	野田地A-VI	約 2,764m ²	本 調 査	4.17～5.29 (延べ19日)	小村	炭焼窯跡 2、その他穴 7、炭化材散布地 3	須恵器皿・蓋、土器・鉄製品	
計	7 遺跡・地区	約570m ²	本調査	約9,386m ² (平成2年から調査箇所面積 約3,464m ²) 平成3年からの調査面積 約5,831m ²)			※須恵器・蓋・炭焼窯跡・炭化材等・製鉄炉は考古地盤調査実績を示す	

表 5 太閤山カントリーアーバン建設地内の中古文化財調査実績

6. 普及・活用

(1) 整理室（太閤山小学校）の見学

整理室では、昨年調査を実施した赤坂C遺跡の2箇所の須恵器窯跡から出土した須恵器の復元作業を中心に、調査遺跡の報告書刊行に伴う遺物整理や図面作成を行っている。

また、今年度の発掘調査で出土した遺物の洗いや出土地を記す注記作業を進めてきた。

整理室には、次の見学があった。5月13日（月）に町会議員の見学。7月29日（月）に町新任職員の見学。11月1日（金）に中太閤山小学校生徒（約160名）の見学。12月24日（火）に荒山建設作業員（約20名）の見学。

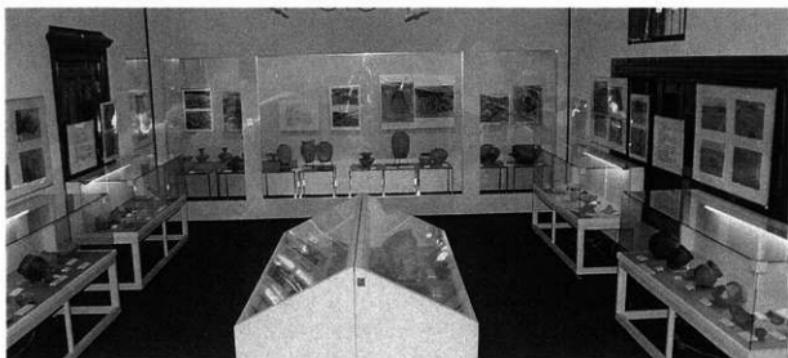
(2) 展示

小杉町展示館の2階常設展示室（約60m²）で6月から12月にかけて「近年の発掘調査から」を開催した。展示内容は、平成2年と3年4～5月に小杉町教育委員会が発掘調査した赤坂C遺跡I・XV地区の須恵器窯跡出土品を中心に構成した。また、速報展として伊勢領遺跡や戸破若宮遺跡から出土した弥生土器や写真も合わせて紹介した。この他、針原東・白石・中山中遺跡の遺物も展示し、各調査遺跡の文字・写真パネル43点・射水丘陵の各時代毎の遺跡分布図6点も説明に用いた。

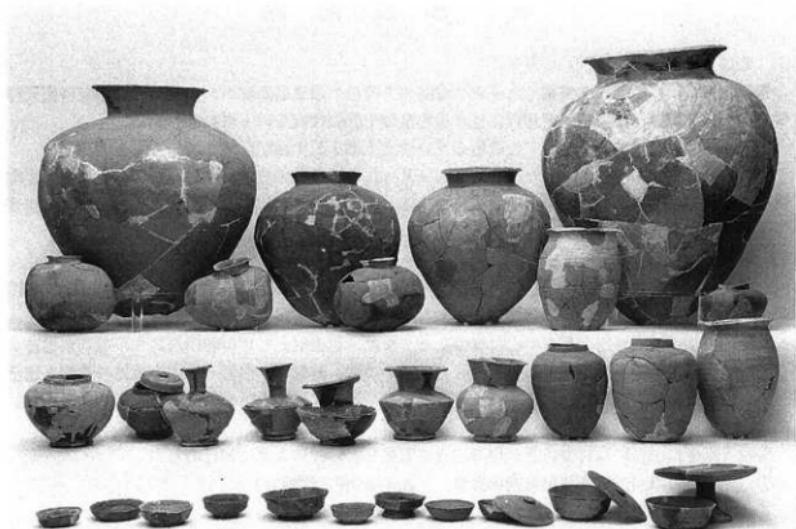
(3) 報告書等の刊行

平成3年度に小杉町教育委員会が発掘調査を実施し、1992年3月に刊行のもの

- ① 「小杉町黒河尺目遺跡発掘調査概要」（A4版26P、図版8）
- ② 「小杉町伊勢領遺跡発掘調査概要」（A4版38P、図版4）
- ③ 「小杉町戸破若宮遺跡発掘調査概要」（A4版56P、図版14）
- ④ 「小杉町白石遺跡発掘調査概要」（A4版32P、図版12）
- ⑤ 「小杉町小杉流通団地内No.1遺跡発掘調査概要」（B5版14P、図版4）山武考古学研究所協力
- ⑥ 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1991年度」（B5版20P）



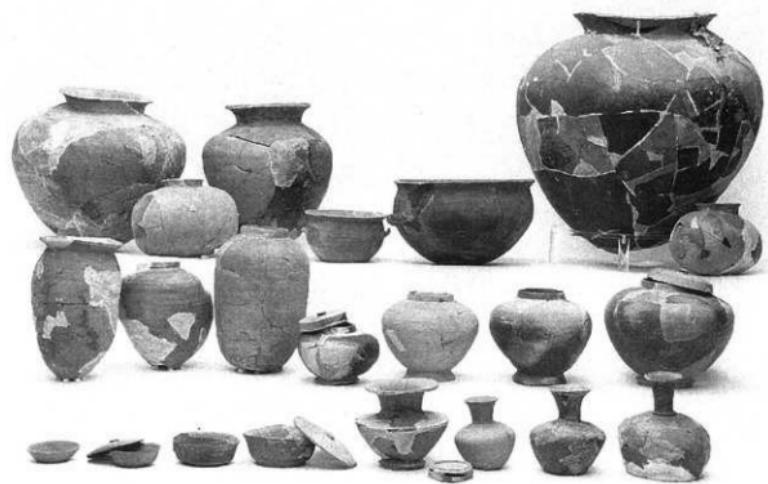
展示の様子



復元した須恵器（赤坂C遺跡I地区：奈良時代後半）



同 上



復元した須恵器（赤坂C遺跡XV地区；奈良時代末頃）



同 上

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1991年度

平成4年3月30日発行

編集 小杉町教育委員会

発行 富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-03 電話(0766)56-1511

印刷 日興印刷株式会社
